

子宮頸がんワクチン 情報収集し最善の選択を

2013年3月2日付沖縄タイムス「論壇」

HPV ワクチン（別名子宮頸がん予防ワクチン）をご存じでしょうか。

2013年に大勢の副反応被害の報告があり積極勧奨中止となっていました。昨2022年より解禁となり、国も各自治体も再び積極的に勧めています。対象者は、小6から高1の女子。すでに打ったお子さんのいるかたも、この投稿をお読みになると思いますが、ぜひ最後までお読みいただきたいと思います。

この再開は、ワクチンが改良されたから？と想像したかたも多いようですが、全く違います。

ワクチンしたい元の薬剤のままです。被害者の中には少しは症状が緩和されたかたもありますが、根本的な治療法が見つかっていません。

殆ど報道されていませんが、被害者たちは2016年に国と製薬会社に対し裁判を起こし、現在約130人の原告がいます。多くが2010年頃に接種した人たちですから、10代から20代の10数年病床にあり、人生を棒にふるされてきました。

沖縄県内にも原告が4人いらっしゃいます。提訴していない被害者もあり、中には一昨年まで「てんかん」と誤診されていて、県外の専門医により被害の確定診断を受けたかたもいらっしゃいます。

製薬会社は添付文書で1000人に1人の副反応発生を認めており、調査によっては500人に1人という報告も上がっています。つまり、別の診断名や原因不明の難病扱いを受けている潜在的被害者は県内にもいることは明らかです。

他県での事例ですが、お嬢さんのワクチン被害による体調不良を、怠けていると思ひ込み叱責してしまい、その後お嬢さんと連絡の取れなくなってしまったお母様がいらっしゃるそうです。そのかたは、他の被害者の体験を聞くことにより、お嬢さんには何の落ち度もなかったばかりではなく、まぎれもなく、ワクチン被害に遭ったと今では理解されているとのこと。

このワクチンは日本だけでなく世界保健機関（WHO）まで推奨し世界中で行われていますが、各国で訴訟が起きていることや、からだのみならず家庭や人間関係まで壊している実態はなかなか知られていません。

折しも今年4月からはワクチンの働きも添加物も既存薬の約2倍となる後継

薬（9価ワクチン）の接種が始まります。国の決定を覆させることはできなくとも、親御さんの判断でお子さんを守ることは可能です。どうか幅広い情報収集をされて最善と思う選択をなさってください。

那覇市 HPV ワクチン薬害訴訟を支える会・沖縄 代表世話人 渡辺優子